

分娩のイロハを 実践的に学ぶ

分娩進行の評価を充実させた臨床実習

千葉大学医学部附属病院 周産期母性科

□ 背景

医学生の産科婦人科臨床実習では、患者の協力や反復練習が困難であり、内診の手技や胎児回旋のイメージを理解させることが難しかったため、これらの解決策を模索していました。

そこで今回、子宮頸管がリアルに変化する「分娩シミュレータアドバンスド」と、ビショップスコアを段階的に設定できる「妊婦内診シミュレータ」を併用し、内診および胎児回旋に焦点をあてた臨床実習を企画しました。



胎位や回旋を視覚的に理解

□ 指導者の想い



佐藤 美香

千葉大学医学部附属病院
周産期母性科

日頃、学生や初期臨床研修医から「胎児の回旋がイメージしにくい」という声を多く聞いていました。

当科に導入した“分娩シミュレータ アドバンスド”は、胎児の回旋を腹側および骨盤側から視覚的に確認することができます。また胎児に触れることで立体的に回旋の理解を深めることにも役立っています。

さらに後期臨床研修医に対して、臨床実践前の吸引分娩トレーニングとしての活躍にも期待しています。

分娩第1期に焦点をあてた循環型実習

内診～分娩



ビショップスコアの評価



分娩(第1期～第3期)

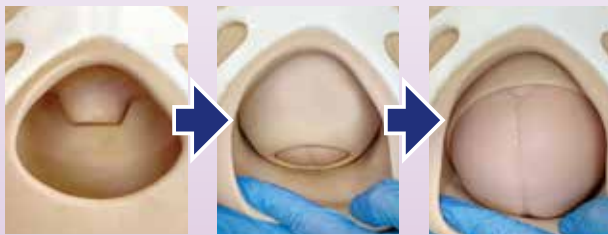
※分娩シュミレータアドバンスド使用

内容
回旋の理解
内診
分娩介助(正常・急速遂娩)

分娩(第1期)

※妊婦内診シュミレータ使用

内容
児頭下降度の理解
先進部の把握(小泉門)
頸管開大度、展退度、頸管硬度、子宮口の位置



可変式：分娩進行中の“リアルな”内診



不変式：内診評価の共通理解



学生の声

- シミュレータを使用することで胎位、胎勢、胎向の違いがわかり、回旋についても深く理解することができた。
- 画像では回旋や子宮口のやわらかさ、ステーションの評価がわからなかったため、見て触れることができ有意義だった。
- 立体感を持って理解することができ、教科書を読むより忘れにくい知識が身についたと思う。

